

## 個人の判断と決めごと

ジーコ監督は個人の判断の重要性を説き、選手たちにそれを求めました。多くの人がW杯惨敗の因を彼の采配の悪さと非難しましたが、素人目でも選手がタフでなかったことが敗因の一つであることは明白です。選手たちが持っていた技量を十二分に発揮し、aggressiveに判断し動いていたならばもっとすばらしい試合ができたと思いますし、ジーコ監督を使い捨てる何かのようには日本を去らせなくて済んだように思います。

ラグビー日本代表のエリサルド・ヘッドコーチが後味の悪い去り方をしました。彼も個人の判断の重要性を説きました。惨敗続きの原因として、選手から「チームとしての約束事がない」と戸惑う声が相次いだと報じられています。

フランス人からフレンチ・フレア(シャンペンラグビー)という言葉聞いて内容を十分に理解しないで受け入れて、選手一人一人も、彼が魅力を感じるようなプレーを見せつけることもできないままに批判するのは進歩が無いと思います。平素の練習で判断する能力習慣が培われていないことを認めているもので、自立性欠如の現れです。個人の判断は随時必須です。又、日本人の特性である敏捷性や瞬発力を生かすということは、決められたことを素早くやるだけではないのです。タフであることも必須です。(参照:西川ラグビーコラム 2006/01/07)

もし、彼が「5~6回大きくオープンに振って(揺さぶって)それから・・・」と約束事をいったらできたのだろうか。選手たちがタックルされたりラックになるようなケースで不用意に地上に倒れることが多く、立ち上がるのが遅く(どっこいしょは駄目。マコーミックは立ち上がるのが早いプレーヤーだった)スタートの一步までが遅く、方向も不的確という状態で相手を振り切ることは不可能です。早稲田の揺さぶり戦法に揺さぶられたプレーヤーたちは、「揺さぶりに負けないように左・右と走るうちに足が衰えるだけでなく、足が止まって早稲田の動きを見るようになる」といっています。それで組織が乱れて生きたボールを与え、突破口を露呈することにつながるのです。揺さぶり戦法は信念と執念と努力の結果です。個人として、チームとして高度なことを出来ないのを棚にあげておいて批判するのは御門違いで、誰がやっても同じということです。失礼なのはこちらだったかもという反省もしなければなりません。

チーム競技にはチームとしての約束が全く必要ないということはありません。そしてプレーが継続し流れている中では約束事だけではうまく行かない場合が起こります。例えば、揺さぶり戦法で一度大きくオープン展開してから再びボールを展開するとき、途中でも正面の相手の状況により、判断しなくてはならない場合が起こります。またFWのサイドを無抵抗で突進出来る時にサイドを突破することは、相手FWの足を止めるのにも役立ちます。一直線にトライできる時は当然突破するべきです。相手がマークをいい加減にできないということは、それだけ次への動きが遅れるということです。揺さぶり戦法は相手に忠実な防御をさせることによってよりうまく成功するのですが、プロセスに於ける基本的な型通りのプレーを各的的確にすることは、個人の自立性の問題で、約束事の範囲には入らないものです。

以上のことは、全てのチーム・個人にとって大切なことです。選手の意識と能力を問題としてとりあげるだけでなく、日常の練習における指導者の意識と指導を問題としてとりあげられるべきですので、基本理念のベースになっているRFUの言葉が指示していることを復習してください。

1974 Coaching Scheme の質問形式で次のように教示されています。

What coaching stifle flair?

Bad coaching certainly will, but that is another story! Look at it this way.

If a player in your side had a magnificent side-step then what you have to do is to so organise your players that the player with the side-step has the best possible opportunity of using it. It makes sense really. It is no good him side stepping all over the place wasting his energy. One side-step at the right time and then linking up for a try is much more effective.